

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300119		
法人名	社会福祉法人千寿会		
事業所名	グループホームせんじゆ	ユニット名	さくらそう
所在地	宮崎県延岡市北浦町古江2687-1		
自己評価作成日	平成29年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JijyoCd=4590300119-008&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念「ゆっくりに一緒に楽しく」に基づき日々の暮らしの中でグループホームらしい家庭的でゆったりとした環境でご利用者主体の生活が送れるよう力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに入居している利用者や職員は、地元の人たちであり、昔からの暮らしにこだわりを持っている。特に食材に配慮し地元の新鮮な海産物の提供はもとより、山菜(ワサビ、ゼンマイ)等を取り入れ、季節を感じてもらおう工夫をしている。また、地域ならではの特性もあり、地区の社会福祉協議会が年1回開催する認知症徘徊模擬訓練に取り組んでいる。更に町の防災訓練に参加すると、通りがりの人が車椅子を押してくれるなど協力が得られている。ホームも家庭的な環境整備や体験学習の受け入れ、地域との交流を図るなど、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられる支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を心がけ実践できるよう仕事にあたっている。職員会議等でも理念の共有を図っている。	職員に理念を尋ねるとすぐに答が返ってきた。職員間で共有しており、食事時の会話や食後のさりげないケアに理念が生かされ実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事には地域の方が参加していただき交流が行われている。日常も交流できるよう努めたい。	町の総合防災訓練に利用者と一緒に参加するなど、地域の一員として取り組んでいる。近隣より魚や野菜の差し入れもある。また、魚を料理される方もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で委員の区長や民生委員の方にお話しし地域へ話して頂いている。また御家族からの相談へ助言等行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設の状況、事故報告等を行い、委員の方から助言や意見を頂いている。	運営推進会議では、ホームの活動状況を報告するとともに地域の情報や助言を得ている。出された意見や助言は運営に反映させている。次の運営推進会議では、前回討議した内容の結果が報告できるよう取り組むこととしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の防災訓練の参加して避難状況等の検討を協議している。事故があった場合は速やかに報告し助言等頂いている。	訪問調査時3名の市担当者の参加があり、協働関係を築こうとする姿勢が見られ、ホームも困りごとの相談や行事の案内等を報告し、良好な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ(21時～6時)とし開放的にしている。身体拘束は行っていない。	身体拘束の弊害については3か月に1回、法人内全職員参加の会議の場で学ぶ機会があり周知している。見守りを強化したり行動を共にし、自由な生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待等も含め虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では職員全員に学ぶ機会を持っていない。今後全職員が学ぶ機会を持ちたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に内容等を説明し、ご理解を得ている。また利用していて不安な点等あったらいつでもご相談下さいと伝えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等があった時はその都度対応できるかなど職員間で話し合って対応している。また運営推進会議に参加してもらいそこで意見や要望をだせるようにしている。	利用者が意見や要望を言いやすい環境となっている。食事の内容や入浴時の整容など、様々な要望があり運営に反映させている。家族から、ホールの電気が暗いと指摘を受け改善している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を求め協議している。また半期に1回個人面談を行い意見や提案等を聞く機会を設け、改善策等を協議している。	職員の意見や要望を表出する機会はある。玄関の開閉や、照明の時間など、日常的な細かな部分まで話し合いが行われ運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当の支給など給与水準の向上に向け努力している。法人全体を通じて今後人事考課制度を導入し、職員の努力や実績、意欲、向上心を評価する仕組み作りを検討している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修を計画的に行い職員の資質アップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しているが交流等は十分にできていない。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様に見学に来てもらい安心できる環境であることを体感してもらう。ご本人さんのペースでゆっくり話を聞き、不安や困りごとを気軽に言える雰囲気作りを心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは御家族の要望等をじっくり聞くよう心がけている。また、面会時等気になる事は無いかお尋ねし、ご利用者の日頃の様子を報告するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況を十分把握し、必要な場合は担当のケアマネや医療機関、行政とも連携を取り、その上で必要な支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限りご本人ができることはしていただけるよう努めている。洗濯物たたみなど職員と一緒に手伝っていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告し意見等をお聞きしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容所や地域のお店での買い物、知人の面会、電話などで関係が途切れないよう支援している。希望時はご家族にも泊っていただけるよう支援している。	編み物や裁縫ができる利用者には活動できる場を、魚をさばくことができる利用者には差し入れの魚をさばいてもらうなど、一人ひとり培ってきた趣味やできる事を日々暮らしの中で大切に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格、相性など人間関係に気を配り食事の席やソファの座席の調整を行っている。利用者間の会話の場に入り和やかな関係が作れるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入られた利用者の方との交流等行っている。お会いした際にはお話を伺うなどして支援できるよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者のお話を伺い希望を受け止めできることは早急に対応している。職員で話し合いケアプランに取り入れている。	時間をかけてじっくり話を聞き本人の思いをくみ取る努力をしている。動作、表情から把握する等その人に応じた対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人また在宅の担当ケアマネから今までの生活の様子などお話を聞きフェイスシートで情報の共有を図っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートでご本人さんの現状を把握し、日々のケース記録、ユニット日誌、連絡ノート、朝夕の申し送りで日々の状態を把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見や要望を確認し介護職員から意見を聞き計画作成している。1か月に1回はモニタリングを行い、ユニット会議で職員で話し合いご利用者の意向など確認している。	本人、家族の意向や、ケース記録を参考にし職員の意見を反映させ現状に即した介護計画を作成している。見直しは6か月に1回行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録で一日の様子を記録し、朝夕の申し送りで情報共有を図っている。月に1回職員会議を行いご利用者の状況やケアについて話し合っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況や要望に応じてその都度柔軟な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等では地域の方から参加いただき豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。地域の方から魚や野菜の差し入れを頂き料理方法を教えていただくなどしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは24時間連絡が取れる体制を取っており状態変化時はその都度報告し受診、指示を受けている。本人、ご家族の意向を確認しながらかかりつけ医、専門医受診を行っている。	入居者は地元の人達であり、嘱託医が掛かりつけ医となっている。内科以外の受診は家族の都合を考慮してお願いしている。不明な事があれば病院と連絡し合い情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の健康管理を行い、状況に応じて協力医、家族、法人内看護師に連絡相談している。緊急時の場合は協力医の医師へ24時間体制で連絡できる体制を取っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と情報提供書をやりとりし情報の共有図っている。病院、家族と連携を取り入院中の状況把握に努めている。必要時には退院前カンファレンスを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の体制・現状を説明し話し合っている。状態に応じて主治医も交えた話し合いの場を持ち方針を共有し支援している。	過去に看取りを経験している。現在も看取り状態に入っている利用者がある。主治医、家族、関係者と連携を図りながらチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外研修で適切に対応できるよう研修している。日常業務の中で常に対応できるようにさらに研修等行っていく。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練への参加やマニュアルで確認している。運営推進会議で災害時の協力を行政、地域にお願いしている。母体施設である千寿園にも、緊急通報が伝わるようにしている。	避難訓練は入居者と一緒に実施し、マニュアルも作成している。訓練には地元の方の参加があり、地域住民の協力体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の状態に応じた声掛けを行い恥ずかしい思いをしないよう心掛けている。個人情報の取り扱いに注意しながら対応している、		排せつや入浴時における異性の介助に、本人の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすい言葉かけをするなど一人ひとりの誇りを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの場面でご本人の意思や意向を確認しながら支援している。ご利用者が自己決定できるように声掛けを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度の重い利用者の対応が中心になってしまっている。できる限りご利用者の意向を聞き支援していきたい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人で身支度できるご利用者には自分で衣類の選択から整容までできるよう声掛けを行っている。季節や行事に合わせたおしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片づけなどご利用者の意欲や能力に応じて職員と一緒にやっている。プランターに季節の野菜を植えて水やりや成長と一緒に楽しんで季節感を味わってもらえるよう支援している。	昼食の材料や調理方法の話題などの会話が弾む食卓となっている。職員も利用者と同じテーブルで同じ物を食べている。その中で職員の声かけやケアがさりげなく行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量、水分量を毎日記録。状況により食事量の調整や好みの物を提供している。特に夏場の脱水に注意し、夜間の水分補給も声かけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを声かけ、支援している。歯科医の健診を受け、口腔内の状態を診てもらい助言を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で記録し、パターンを把握して声かけを行っている。PTイレ、パットなど身体レベルに合わせた援助を行っている。	状態の悪い利用者を除き、日中はトイレで排せつしている。以前、尿器使用の利用者がトイレを使用するようになったこともあり、可能な限り自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、野菜、果物を提供している。一人一人にその日の排便の確認をし出ない日が続けば緩下剤調整を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック、体調を確認しご本人さんの希望を踏まえ毎日行っている。無理強いはない。ゆっくり入って頂けるようご本人さんのペースで自立支援でゆっくりと支援している。	一番風呂を好む人、たっぷり時間をかける人など、できる限り本人の希望を尊重し入浴が楽しいものになるよう支援している。季節のゆず湯、しょうぶ湯などの工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠れるよう、日中はなるべく活動的に過ごせるようレクリエーション、散歩など働きかけている。夜間眠れない時はソファで一緒にゆっくりと過ごしたりして安心できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルして情報把握できるようにしている。お薬の変更があった時は申し送りして周知している。症状の変化があるときはこまめな記録で情報共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、モップかけなど出来る事を一緒に行っている。裁縫の得意な利用者には繕い物などお願いしている。天気の良い日は散歩を行って気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出することは難しいが理容室、買い物への外出、不定期でドライブや外出の支援を行っている。帰宅願望が聞かれるご利用者様には近くを散歩するなどして気分転換を図ってもらえるよう支援している。	近隣や敷地内を散歩している。北浦インターチェンジが出来、交通の便が良くなり各方面の道の駅で食事を楽しんだり、ドライブに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合いの下、それぞれの状態の応じてお小遣いを持ってもらっている。自己管理の難しい方は事務所で預かり必要時に出し入れしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には何時でも電話を掛けれるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者間でトラブルがないようにソファや食事の席などを配慮して対応している。季節に応じた飾りつけなどして居心地良く過ごせるよう工夫している。	清掃も行き届いており清潔に保たれている。テレビを前に、テーブルやソファの配置が工夫されている。廊下の突き当りには一人用のソファが置かれ、ひとりでもくつろげる配慮がしてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置に気を付けて、気の合う利用者が一緒に過ごせたり、その時の気分に応じて休んで頂けるよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や小物、写真などで居心地良く過ごせるよう努めている。家具やベットの位置など動きやすいように対応している。	自宅での生活がそのまま再現されている。ホットカーペットの上にごたつが置かれ横にはテレビやタンスがある。タンスの上の位牌には、お茶や果物が供えられている。各居室も安心して暮らせる個性あふれる部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等手すり設置、緊急時にベトごと廊下に出れるように廊下幅を広くし床面をバリアフリーにしている。トイレの表示を大きくし分かりやすくしている。			